

2017年11月24日
株式会社七十七銀行

77B I (平成29年7～9月期)の調査結果について

株式会社七十七銀行(頭取 氏家 照彦)では、77B I(七十七景気インデックス)の平成29年7～9月期の調査結果をとりまとめましたので、下記のとおりお知らせいたします。

77B Iは、県内景気全体の動きを計量化し客観的に把握するため、鉱工業生産指数、消費動向指数、建築物着工床面積、有効求人倍率の4つの景気指標を合成して、当行が独自に作成した指数です。

記

1. 概況

(1) 平成29年7～9月期の77B I(暫定値、平成22年=100、季節調整値)は、前期比0.9ポイント上昇の108.8と7四半期連続して上昇し、遡及可能な平成8年以降の最高水準(暫定)を、前期に引続き更新しました。採用指標別にみると、前期に比べ鉱工業生産指数(暫定値)、消費動向指数、建築物着工床面積および有効求人倍率のすべてが上昇しました。

(2) このように77B Iは高水準圏で上昇の動きを続けていますが、これは内外需要が高まるもとの、情報・通信分野関連の生産水準が一層引き上げられたほか、個人消費では高額商品や衣料品などに動きがみられ、それらの動向が設備投資や労働需要に波及したことなどによるものです。

2. 採用指標別動向

(1) 鉱工業生産指数

平成29年7～9月期の鉱工業生産指数(暫定値)は、前期比5.0ポイント上昇の136.6となり、3四半期連続して上昇しました。これは、主力の電子部品・デバイス工業ではスマートフォンや車載用機器など、生産用・業務用機械工業では旺盛な外需を背景に半導体製造装置などの生産水準が一段と引き上げられていることなどによるものです。鉱工業生産指数は、夏場の天候不順から食料品などで下振れし、依然として内需の一部に弱めの動きが残存していますが、全体としては回復しており、前期に記録した現行基準(平成22年基準)の最高値を更新しています。

(2) 消費動向指数

平成29年7～9月期の消費動向指数は、前期比3.2ポイント上昇の101.7となり、前四半期に引続き上昇しました。これは、冷夏の影響で夏物商材が不振だったものの、外食やレジャーなどのサービス関連が底堅く推移したほか、乗用車、家電製品などの耐久消費財や、秋物の衣料品などに動きがみられたことなどによるものです。

消費動向指数は11四半期ぶりに水準が100を上回り、持ち直しの動きとなっています。

(3) 建築物着工床面積

平成29年7～9月期の建築物着工床面積は、前期比0.6ポイント上昇の143.1となり、前四半期に引続き上昇しました。建築物着工床面積は、テナントビルや物流施設などに一服感がうかがわれたものの、仙台市および近郊で超大型の商業施設の着工や生産施設の増設の動きなどがあり、全体の水準を下支えしました。建築物着工床面積は、振れを伴いながら概ね横ばい圏内で推移しています。

(4) 有効求人倍率

平成29年7～9月期の有効求人倍率は、前期比6.0ポイント上昇の360.2となり、前四半期に引続き上昇しました。新規求人数を業種別にみると、建設業に幾分落ち着きが見られたものの、製造業では生産工場の新設や増産対応など、サービス業では工場向けの派遣労働需要や夏祭り等の警備需要などから増加が見られたほか、医療・福祉では介護施設の人手不足などから引続き高い水準となっています。

一方、求職者数は減少の一途を辿っており、希望職種にも偏在がみられるなど、労働需給はより一層逼迫した状況となっており、有効求人倍率は遡及可能な平成8年以降で最も高い水準となっています。

以 上

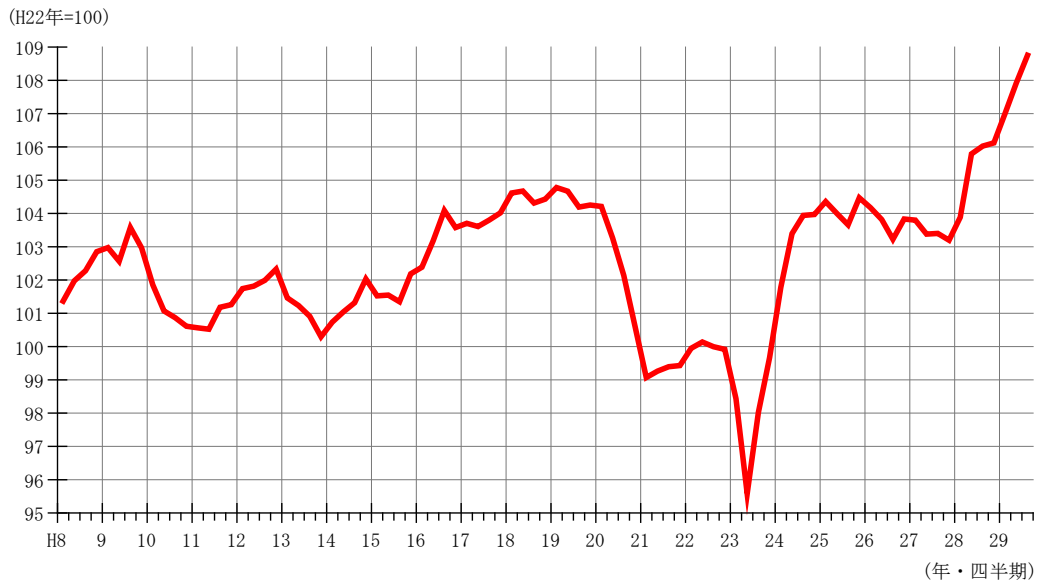
<本件に関するお問い合わせ先>

七十七銀行 地域開発部 調査課 田口

電話 022-267-1111 内線 2551～2553

(参 考)

図表1 77B I の推移



図表2 77B I 推移表

(平成22年 = 100)

	77B I	(参 考)			
		鉱工業生産指数	消費動向指数	建築物着工床面積	有効求人倍率
26年度	103.7	92.1	99.5	157.5	287.2
27年度	103.4	90.4	93.2	132.8	304.5
28年度	106.1	110.9	98.5	136.0	336.8
25.10~12	104.5	97.2	101.4	267.2	288.2
26.1~3	104.2	97.4	101.1	117.1	287.4
4~6	103.8	97.9	98.4	160.0	282.2
7~9	103.2	88.9	100.5	114.7	279.2
10~12	103.8	89.1	101.3	239.2	289.7
27.1~3	103.8	92.4	97.8	116.0	297.9
4~6	103.4	92.5	95.4	146.4	291.2
7~9	103.4	89.8	93.1	114.7	306.9
10~12	103.2	87.4	90.7	139.9	308.4
28.1~3	103.9	93.1	93.5	130.4	311.4
4~6	105.8	110.8	99.2	150.7	325.7
7~9	106.0	111.2	99.6	102.9	333.2
10~12	106.1	107.0	99.0	164.6	346.0
29.1~3	107.0	123.3	96.1	125.9	342.2
4~6	107.9	131.6	98.5	142.5	354.2
7~9	108.8	136.6	101.7	143.1	360.2

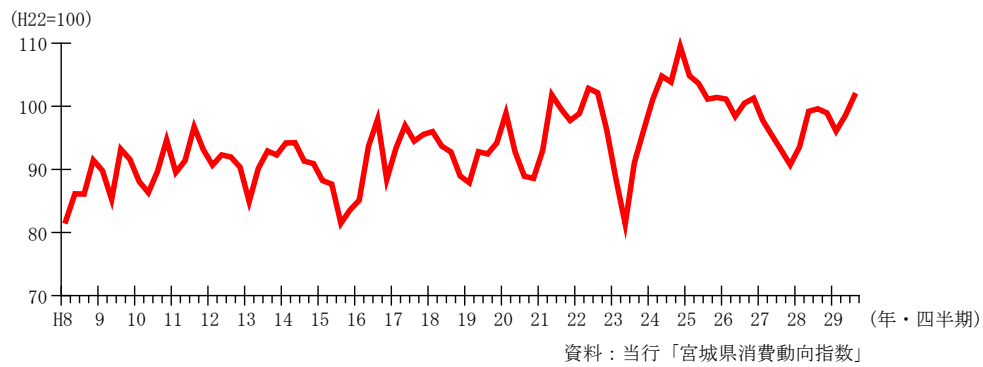
注) 鉱工業生産指数の平成29年7~9月の数値は平成29年9月の数値を前月と同値と仮定して算定した暫定値。

資料：宮城県、国土交通省、宮城労働局

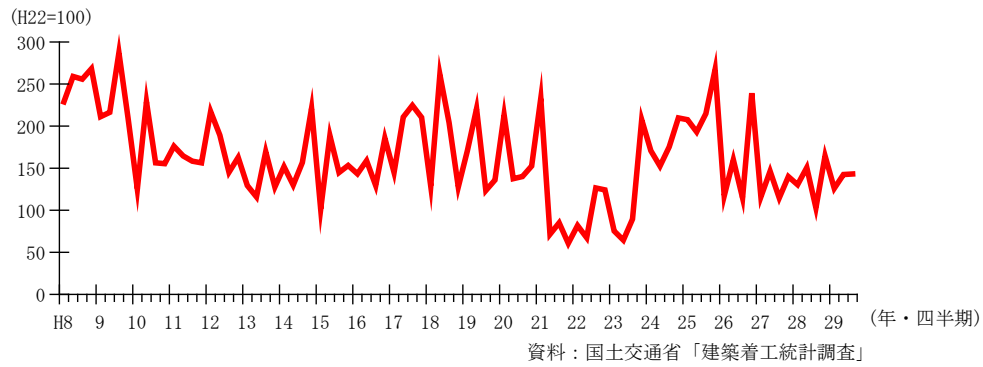
図表3 鉱工業生産指数



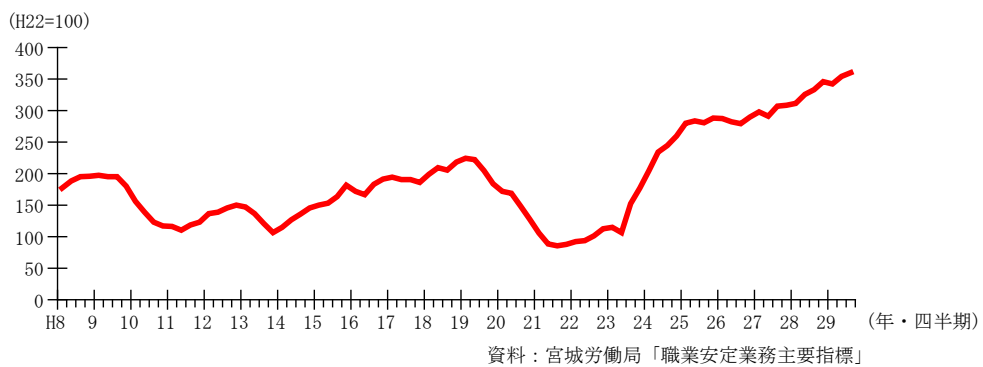
図表4 消費動向指数



図表5 建築物着工床面積（民間非住宅）



図表6 有効求人倍率



図表7 77B I 長期的推移表

(平成22年=100)

年	四半期	77B I
19年	I	104.8
	II	104.7
	III	104.2
	IV	104.3
20年	I	104.2
	II	103.3
	III	102.1
	IV	100.6
21年	I	99.1
	II	99.3
	III	99.4
	IV	99.4
22年	I	99.9
	II	100.1
	III	100.0
	IV	99.9
23年	I	98.4
	II	95.6
	III	98.0
	IV	99.7
24年	I	101.8
	II	103.4
	III	103.9
	IV	104.0
25年	I	104.4
	II	104.0
	III	103.7
	IV	104.5
26年	I	104.2
	II	103.8
	III	103.2
	IV	103.8
27年	I	103.8
	II	103.4
	III	103.4
	IV	103.2
28年	I	103.9
	II	105.8
	III	106.0
	IV	106.1
29年	I	107.0
	II	107.9
	III	108.8